

和爾遺跡第14・15次調査 現地見学会資料(2002年9月23日)

調査機関	奈良県立橿原考古学研究所
所在地	奈良県天理市和爾町
調査内容	弥生時代末～古墳時代初頭、古墳時代中期の集落遺跡 古墳時代前期の墓地、その他
現地説明会	2002年9月23日午後1時30分～3時

1. はじめに

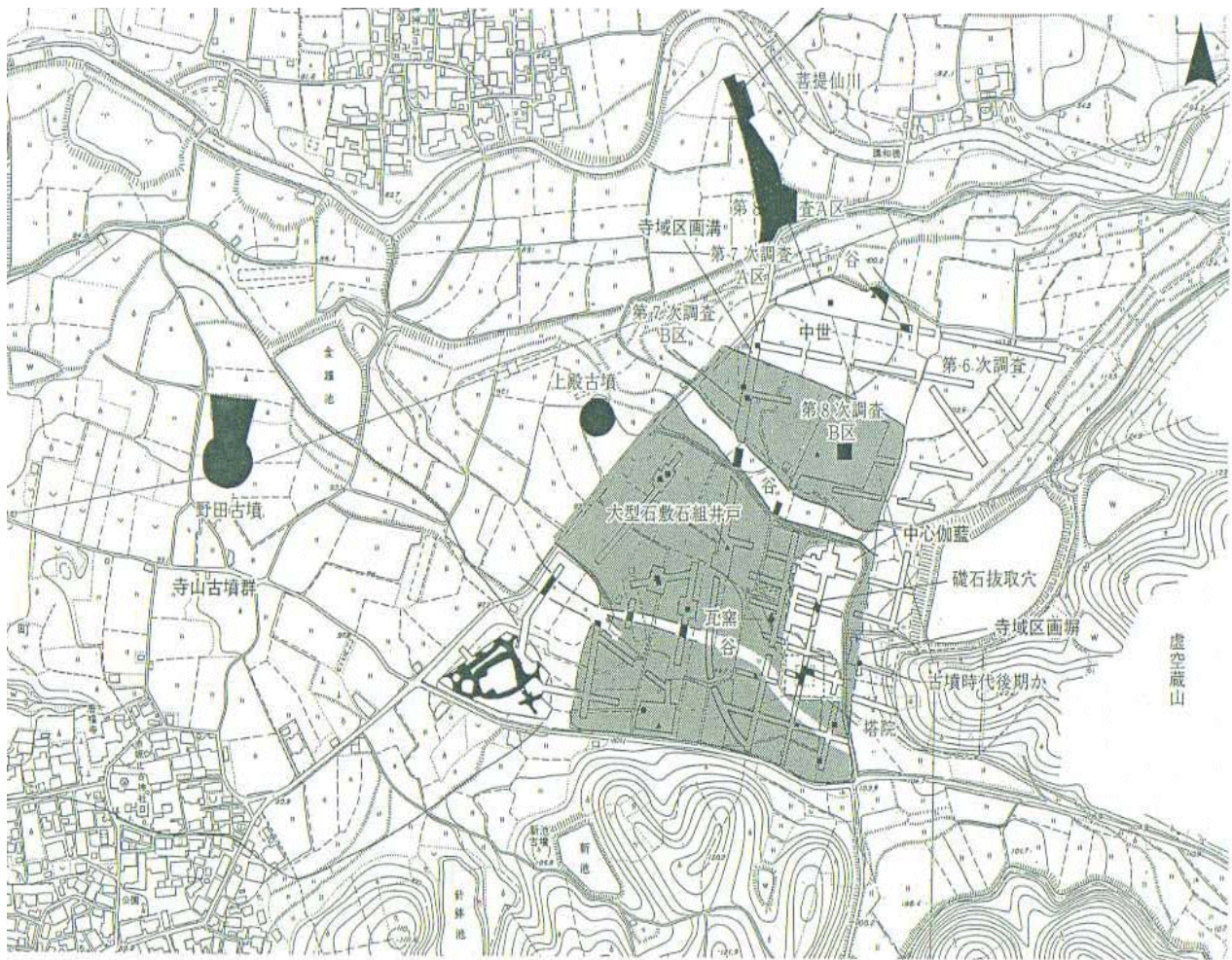
奈良県立橿原考古学研究所は、天理市和爾町周辺で奈良県北部農林振興事務所が平成9年度以来実施してきた県営農道・圃場整備事業(和爾地区)に伴う事前調査を行ってきました。平成9～12年度の調査では虚空蔵山西麓に位置する古代寺院の願興寺とその附属施設がメインでありましたが、昨年度から調査をすすめてきた菩提仙川南岸一帯では一転して古墳時代の遺構がメインになってきました。今回説明します場所も古墳時代の遺構が核となります。それらは大まかに弥生時代末～古墳時代初頭の集落、古墳時代前期の墓地、古墳時代中期の集落に分かれます。



- 1.願興寺跡 2.堀田池遺跡 3.森本・窪之庄遺跡 4.森本・寺山遺跡 5.和爾・森本遺跡 6.長寺遺跡 7.櫛本高塚遺跡 8.東大寺山遺跡 9.石上銅鐸出土地 10.平尾山遺跡 11.割塚遺跡 12.栗塚遺跡 13.上殿古墳 14.野田古墳 15.東大寺山古墳 16.赤土山古墳 17.和爾下神社古墳 18.櫛本墓山古墳 19.岩屋大塚古墳 20.石上大塚古墳 21.ウワナリ古墳 22.ハミ塚古墳 23.寺山寺跡 24.稻池廃寺 25.長寺跡 26.柿本寺跡 27.在原寺跡 28.弘仁寺 29.白川火葬墓群 30.僧道薬墓

遺跡周辺地図

「国土地理院発行 1/25,000 地形図 (大和郡山) を使用」



〈トーン部は願興寺推定寺域〉

〔■：掘立柱建物跡、▲：井戸、一堤・溝、●：竪穴式住居跡、◆：その他〕

和爾遺跡全体図

1/2,500 天理市全図 10 を使用

2. 調査の概要

①弥生時代末～古墳時代初頭

今回の調査地の東北部を占め、約7700㎡の広がりをもつものと考えられます。主な遺構は竪穴式住居、溝、川です。

竪穴式住居は調査地東北部の南東部と北西部で検出しましたが、前者では3棟、後者では2棟が切り合った状態で検出されました。部分的な調査に留まったので集落内の正確な住居の数は分かりませんが、周辺から土器が多量に出土したもので、相当数存在したことが考えられます。また、前者のうち一番新しく建てられた竪穴式住居03の周囲には、住居に雨水などが入らないようにするために掘られたと思われる排水溝が巡っており、その中から平底のタタキ甕が数点横倒しの状態で出土しました。一方、後者からは銅鏃が1点出土しており、注目されます。倉庫については不明ですが、後述する溝群と川とに挟まれた空間で柱穴を数基検出しましたので、その周辺に求められるかもしれません。

溝は多数検出しましたが、特に前者の竪穴式住居群に北接する場所で密集して検出されました。それらは幅が広くて深い一群と、幅が狭くて浅くかつ格子状に交差する一群とに分かれるようです。機能はまだ不明ですが、前者は用水路もしくは排水路、後者は畑のようなものを想定し

ています。なお、それらには切り合いが認められるので何時期かに分かれそうです。また、これらが廃絶した段階には多量の土器が捨てられました。完形品はほとんど認められませんでした。

川は調査地東北部の北部で1条検出しました。ここからも多量の土器が出土しましたが、先述の溝群とは違って完形品が多数出土しました。

主な遺物は多量の土器、銅鏃です。特に、前記の土器群は南方約5kmに展開する古墳時代初頭の中心地域(大和・柳本・纏向)の土器群と比較する上で重要な資料となるでしょう。また、銅鏃も近畿地方の同時期の集落では出土するのが稀な遺物です。

なお、同時期の墓地は周辺では不明です。

②古墳時代前期

今回の調査地の南東隅を占め、主な遺構は方形周溝墓、主な遺物は土師器です。特に、方形周溝墓は調査地内で3基以上検出しましたが、規模に格差があるようで、標高の高い方に規模の大きなものが位置するようです。同時期の集落は周辺では不明ですが、南隣の尾根上には上殿古墳があります。

③古墳時代中期

今回の調査地の西部を占め、約17500㎡の広がりをもつものと考えられます。主な遺構は北部に掘立柱建物や柵、中部に川、南部に竪穴式住居というように、川をはさんで遺構の性格が違っています。掘立柱建物は2棟以上、柵は4条以上、竪穴式住居は2棟以上存在するものと思われます。主な遺物は初期須恵器、土師器、韓式系土器、製塩土器、手づくね土器、管玉などです。その大半が川から出土しました。同時期の墓地は不明ですが、中期末～後期末の寺山古墳群が上殿古墳の南隣の尾根上に展開しています。

なお、いずれの時期も水田などの生産域は調査地内では見出せませんでした。

A地区遺構平面図





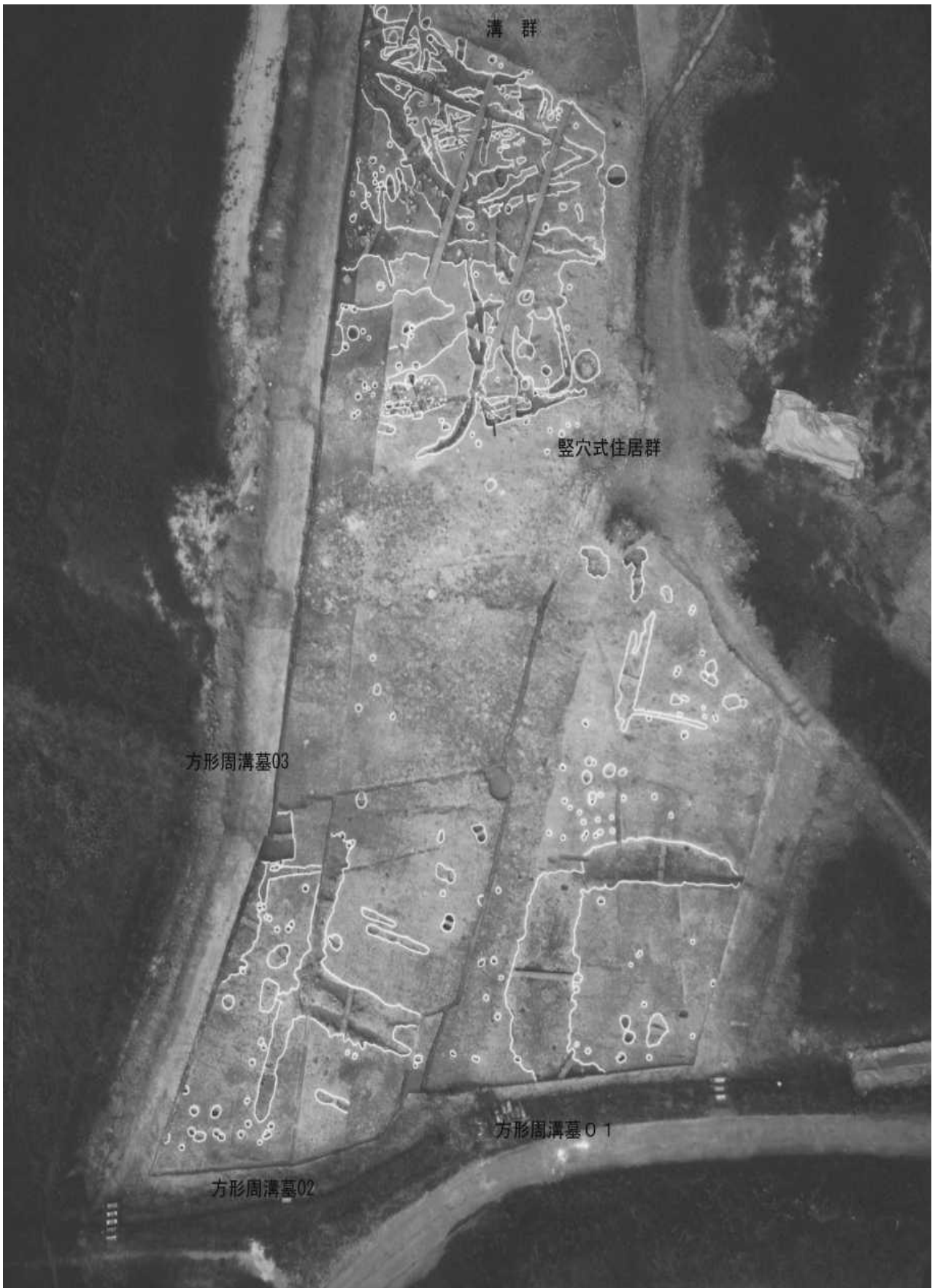
3. まとめ

今回の調査の最大の成果は、周辺で今まで不鮮明だった古墳時代の状況が明るみになったことだけではなく、弥生時代末～古墳時代初頭、前期、中期と時期ごとに遺構が存在し、それらがあまり交わることなく調査区内で移動している状況を確認したことです。それぞれ規模はさほど大きくはありませんが、多量の弥生時代末～古墳時代初頭の土器群、銅鏃、古墳時代中期の初期須恵器、韓式系土器、製塩土器、管玉など多様な遺物も出土しており、集落を研究する上で資すること大でありましょう。

また、この和爾町周辺は葛城氏にも比肩する古代の大豪族であるワニ氏の本拠地と目される場合が多いので、今回確認された遺構・遺物がそれらとどう関係しているのか興味の尽きないところです。今後の周辺の調査にも注目してください。



和爾遺跡俯瞰全景写真



古墳時代初頭の竪穴式住居と前期の方形周溝墓



弥生時代末～古墳時代初頭の川から出土した土器群

【文献】

- 岡林孝作 1998 「願興寺―第1次調査―」『奈良県遺跡調査概報1997年度(第1分冊)』
- 米川仁一 1998 「和爾遺跡第3次(願興寺)」『奈良県遺跡調査概報1997年度(第1分冊)』
- 米川仁一 1999a 「和爾遺跡第4次(願興寺)」『奈良県遺跡調査概報1998年度(第2分冊)』
- 米川仁一 1999b 「和爾遺跡第5・6次発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報1998年度(第2分冊)』
- 青柳泰介 2000a 「和爾遺跡第7次」『奈良県遺跡調査概報1999年度(第1分冊)』
- 青柳泰介 2000b 「和爾遺跡第8次」『奈良県遺跡調査概報1999年度(第1分冊)』

青柳泰介 2001 「和爾遺跡第9・10次調査発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報2000年度(第1分冊)』

佐々木好直・青柳泰介 2002 「和爾遺跡第11・12・13次調査発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報2001年度(第1分冊)』

本資料は、奈良県立橿原考古学研究所主任研究員青柳泰介、同嘱託伊藤雅和が作成した。